

## 努力の人「信夫山」

「関協昇進、おめでとうございます。」

「今度は、大関めざしてがんばってください。」

昭和三十三年、ついに念願の関協への昇進を果たし、たくさん  
のファンに囲まれ、お祝いの言葉を受ける信夫山の顔には喜びが  
あふれていた。

信夫山にとって、関協に昇進するまでの道のりが、長くきびし  
いものであっただけに、喜びも一きわ大きいものであった。

信夫山は、大正十四年（一九二五）、保原町のまゆ問屋本間家に生まれ、栄と名付けられ  
た。

栄少年は、小さい頃から運動神経がバツグンにすぐれていた上に、小学校高学年になると  
体がぐんぐん大きくなり出した。友達とすもうを取っても、だれも栄にかなうものがいなく  
なり、栄は上級生さえ投げ飛ばすほどになった。

やがて、近所に住んでいたすもう部屋の知り合いの人から、力士になることをすすめられ

